

日本航空株式会社 2026年3月期 第3四半期 決算説明会



JAPAN AIRLINES



2026年2月3日

代表取締役副社長執行役員グループCFO 斎藤祐二

執行役員 弓崎雅夫

©Japan Airlines, All rights reserved.



APEX
WORLD CLASS



Best Wi-Fi in Eastern
Asia 2026 APEX"



SKYTRAX
Best Economy Class Airline Seats
2025
Best Premium Economy Class Airline
in Asia 2025



SKYTRAX
World Airline Star
Rating
5-Star



2024年度（第42回）IT賞
（オープンイノベーション領域）



JAPAN OPEN
INNOVATION PRIZE

1. 2026年3月期 第3四半期 業績概要

2. 2026年3月期 第3四半期 業績詳細

3. 参考資料



ESG社外評価



FTSE Blossom
Japan Index ※



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



Dow Jones Sustainability
Asia Pacific Index 3年連続選定



サプライヤーエンゲージ
メント (SEA) A

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ※ 女性活躍指数 (WIN)

当社によるMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名称の使用は、MSCI又はその関係会社による当社の後援、宣伝、販売促進を目的としていません。MSCIのサービスおよびデータはMSCIの独占的財産で、MSCI及びMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCI又はその関係会社の商標又はサービスマークです。

注.(1) 当資料における表中の値は、金額は億円未満を切り捨て、比率は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(2) Q3(10月-12月)の実績はQ3累計実績(4月-12月)からQ2累計実績(4月-9月)を差し引いて算出しております。

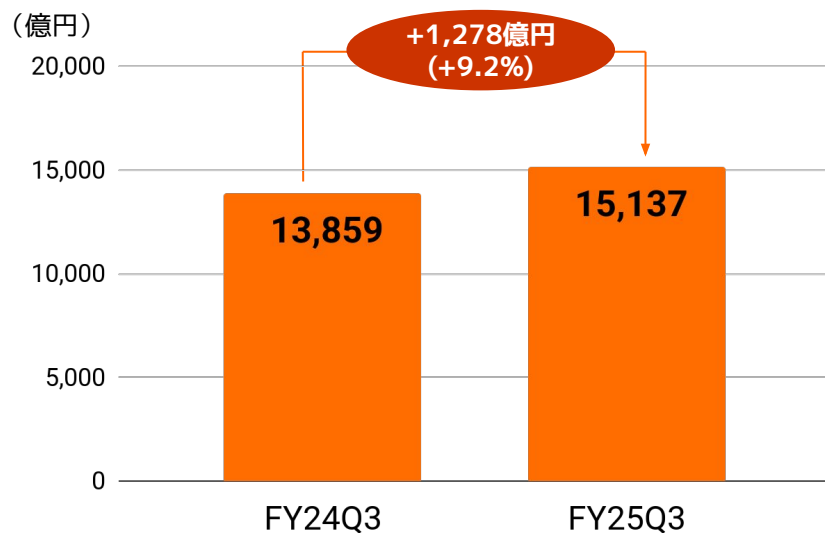
(3) LCC=Low Cost Carrier (4) ※= 役員報酬算定にESG銘柄選定評価を導入しており、対象とする銘柄のうち当社が選定されているもの

2026年3月期 第3四半期 連結業績概要

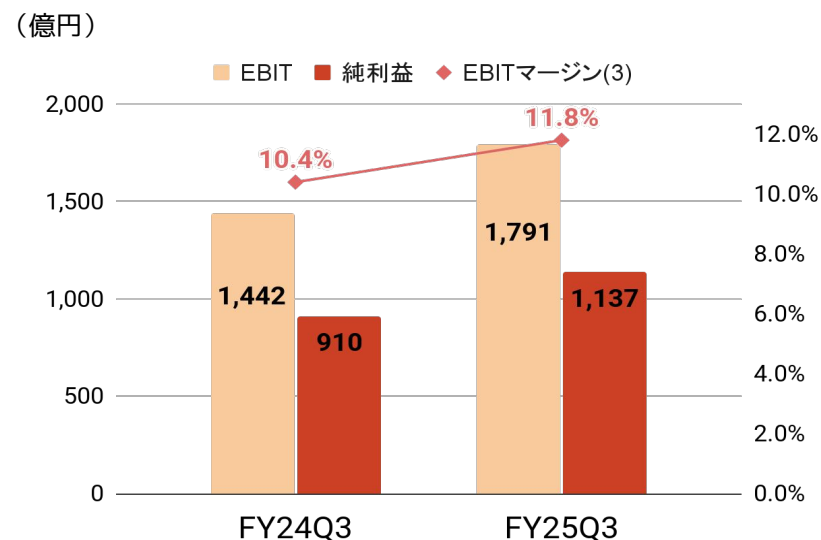


✓ 好調な国際旅客需要と需要喚起継続による国内旅客取り込みにより、対前年で増収。EBITは計画を上回り、過去最高益を達成

売上収益



EBIT⁽¹⁾/純利益⁽²⁾



燃油・為替市況実績

	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比
シンガポール・ケロシン (USD/bbl)	94.4	85.3	▲9.6%
ドバイ原油 (USD/bbl)	80.3	68.1	▲15.2%
為替 (円/USD)	152.6	148.0	▲3.0%

運航諸元 / ASK

	FY25Q3 (前年同期比)		
	国際線	国内線	合計
フルサービスキャリア	+6.7%	▲0.3%	+3.8%
LCC	+20.7%	▲48.8%	+18.2%
合計	+9.1%	▲0.9%	+5.4%

(1) EBIT=財務・法人所得税前利益 (税引前利益から利息等の財務収支を除いたもの) (2) 純利益=親会社の所有者に帰属する四半期利益 (3) EBITマージン=EBIT/売上収益

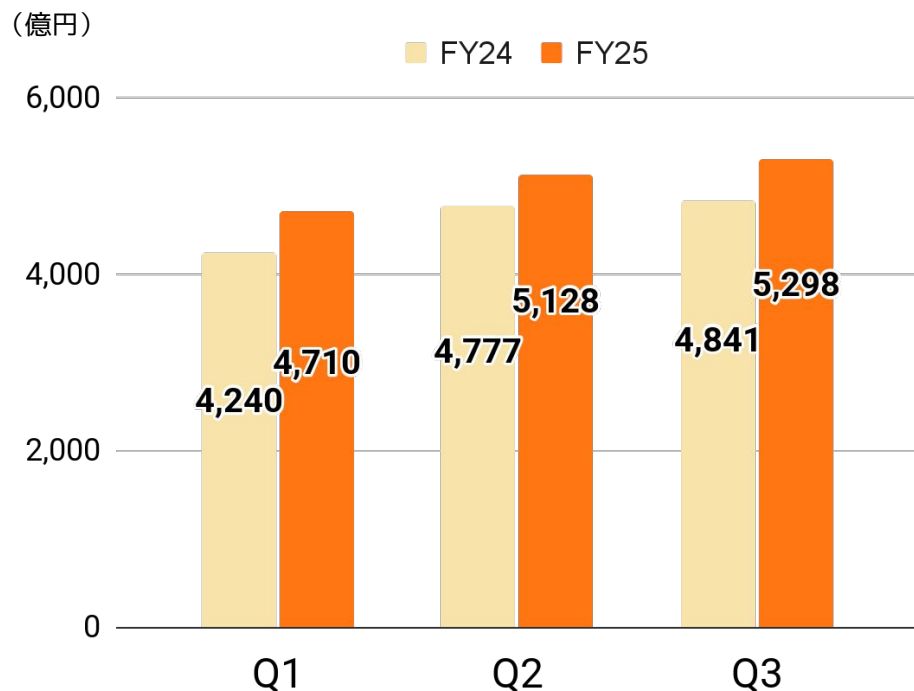
- 2026年3月期第3四半期累計の売上収益は、引き続き好調な国際旅客需要と国内旅客の取り込みにより、前年度より9.2%増の1兆5,137億円となりました。破綻後の過去最高収入となりました。
- EBITは、前年度を348億円上回る1,791億円となり、第3四半期としては過去最高益となりました。また、純利益は前年を226億円上回る1,137億円となりました。
- 第4四半期は国際旅客・国内旅客・貨物とフルサービスキャリアの収入は堅調に推移する見込みですが、インフレ影響等で費用が増えるほか、マイルに関して会計理由による収入の調整が発生する見込みです。EBIT2,000億円の目標達成、そして2,091億円の過去最高益の更新に向け、最後まで努力していく所存です。
- 業績予想の修正は、必要に応じてしかるべきタイミングで実施することを考えております。

各四半期の連結売上収益・EBIT推移

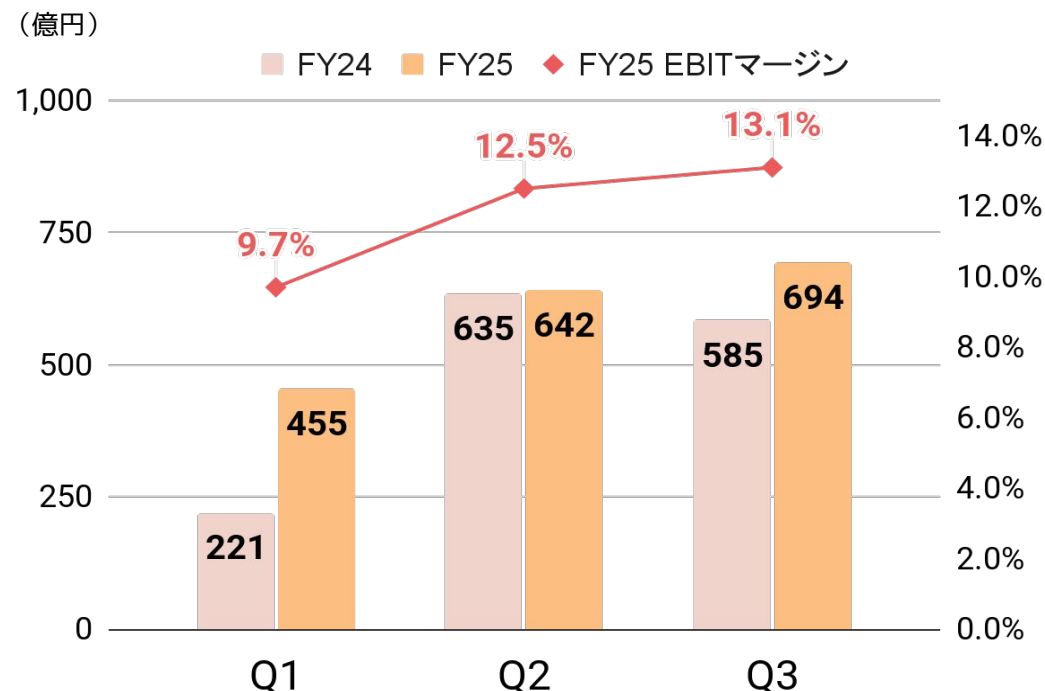


- ✓ 第3四半期単独の売上収益・EBITは対前年を上回り、再上場後の過去最高を達成
- ✓ 第3四半期単独のEBITマージンは13.1%と高水準を達成

売上収益



EBIT



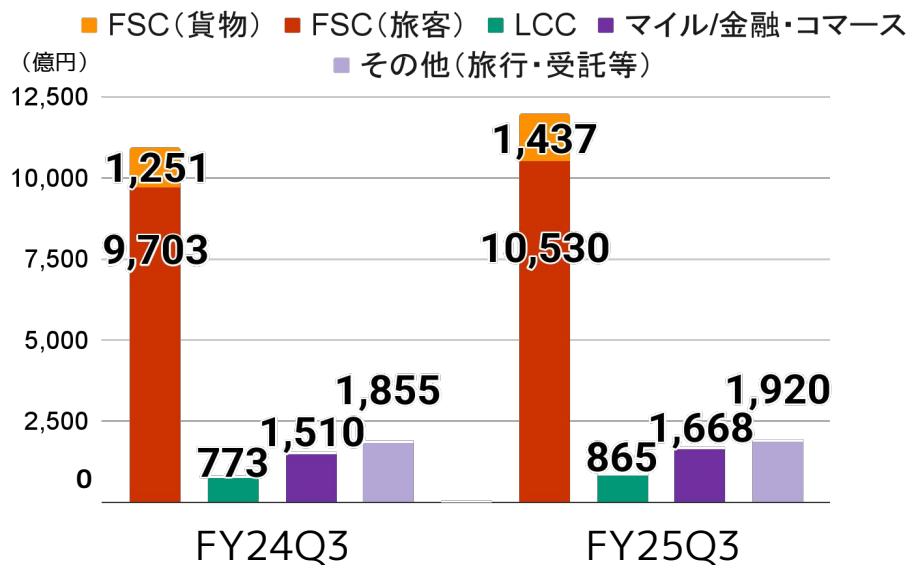
- こちらのページでは、各四半期の連結売上収益並びにEBIT推移について説明します。
- 第3四半期単独の売上収益は5,298億円となり、前年から457億円の増加となりました。また、同じくEBITは694億円となり、前年から108億円増加し、増収増益となりました。
- 第3四半期単独の売上収益・EBITは再上場後の過去最高額となり、EBITマージンは13.1%となりました。

2026年3月期 第3四半期 セグメント別実績

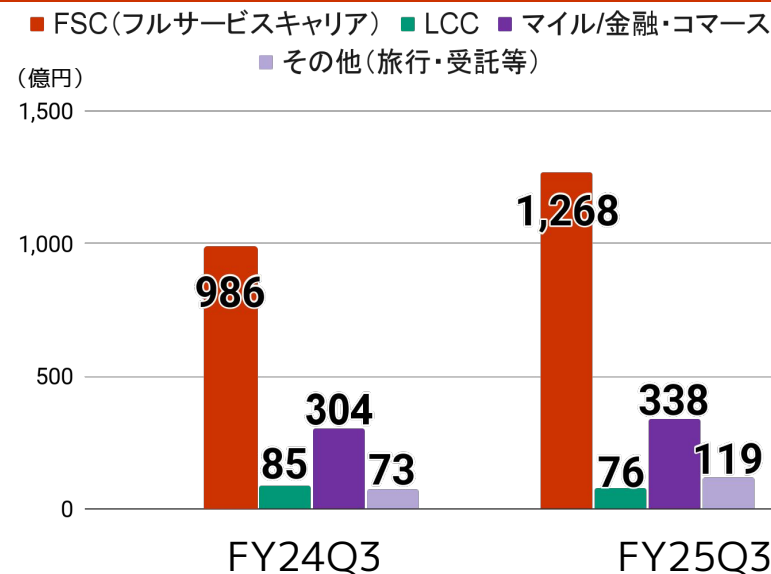


- ✓ FSC：国際旅客需要の好調な伸びと貨物専用機の活用がけん引し、対前年で増収増益
- ✓ LCC：マーケットの需要に柔軟に対応し、対前年で増収を維持
- ✓ マイル/金融・コマース：事業構造改革の進展により、対前年で増収増益
- ✓ その他：受託事業がけん引し、対前年で増収増益

セグメント別 売上収益



セグメント別 EBIT



FY25Q3単独		FSC（フルサービスキャリア）		LCC	マイル/金融・コマース	その他（旅行・受託等）
売上収益		3,688（旅客）	527（貨物）	274	589	640
	前年同期差	+304	+73	+37	+64	▲10
EBIT		506		6	127	54
	前年同期差	+88		▲1	+17	+4

注: セグメント別実績における売上収益およびEBITはセグメント間連結消去前数値です。

- こちらのページでは、セグメント別の実績につきましてご説明します。
- 第3四半期累計のフルサービスキャリア事業のEBITは国際旅客や貨物がけん引し、対前年で増収増益となっております。
- LCC事業につきましては、マーケットの需要に柔軟に対応し、対前年で増収を維持しております。
- マイル/金融・コマース事業につきましては、事業構造改革の進展により利益を伸ばし、338億円のEBITを計上しております。
- その他事業では、受託事業が引き続き好調を維持しております。

1. 2026年3月期 第3四半期 業績概要
2. 2026年3月期 第3四半期 業績詳細
3. 参考資料



INTENTIONALLY LEFT BLANK

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

科目別連結経営成績



(単位：億円)	FY24Q3	累計			単独		
		FY25Q3	前年同期差	前年同期比	FY25Q3	FY24Q3	
						同期差	同期比
売上収益	13,859	15,137	+1,278	+9.2%	5,298	+457	+9.4%
フルサービスキャリア	10,919	11,893	+973	+8.9%	4,190	+372	+9.8%
国際旅客収入	5,186	5,657	+470	+9.1%	1,979	+198	+11.1%
国内旅客収入	4,338	4,654	+316	+7.3%	1,633	+99	+6.5%
貨物郵便収入	1,251	1,437	+186	+14.9%	527	+73	+16.3%
その他収入	142	143	+0	+0.5%	49	+1	+3.0%
LCC旅客収入	654	739	+84	+12.9%	232	+30	+15.2%
マイル/金融・コマース	990	1,106	+115	+11.6%	407	+45	+12.6%
その他（旅行・受託等）等 (1)	1,294	1,399	+105	+8.1%	468	+8	+1.8%
営業費用	12,537	13,589	+1,051	+8.4%	4,681	+386	+9.0%
燃油費	2,844	2,974	+130	+4.6%	1,036	+115	+12.6%
燃油費以外	9,693	10,615	+921	+9.5%	3,645	+271	+8.0%
その他収支 (2)	121	243	+122	+101.0%	77	+37	+97.2%
EBIT	1,442	1,791	+348	+24.2%	694	+108	+18.5%
EBITマージン(%)	10.4%	11.8%	+1.4pt	-	13.1%	+1.0pt	-
純利益	910	1,137	+226	+24.9%	460	+49	+12.0%
RPK(百万人キ口)	58,417	63,814	+5,397	+9.2%	21,513	+1,241	+6.1%
ASK(百万席キ口)	72,237	76,160	+3,922	+5.4%	25,427	+1,276	+5.3%
EBITDAマージン(%) (3)	18.8%	20.0%	+1.2pt	-	20.9%	+0.7pt	-

連結業績詳細は、全社連結科目別に表したものであり、報告セグメント別の売上収益ではありません。

(1) その他（旅行・受託等）等 = 旅行・受託事業収入等

(2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) EBITDAマージン=EBITDA/売上収益 EBITDA=EBIT+減価償却費

- 以降のページでは、第3四半期の詳細について説明いたします。
- 7ページでは連結経営成績の数字をお示ししております。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

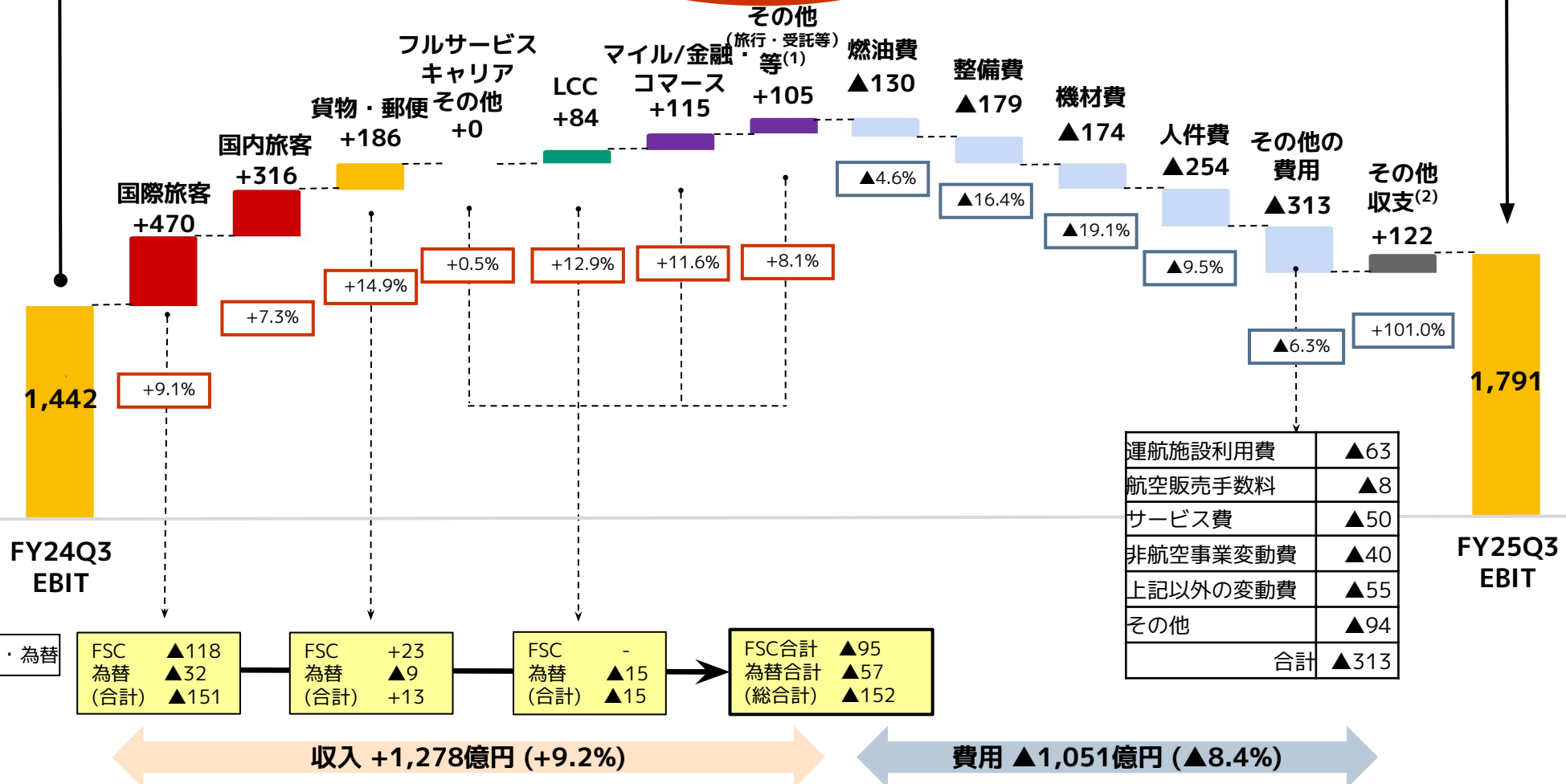
EBIT増減の科目別推移（収入／費用）



RPK前年同期比： +9.2%
ASK前年同期比： +5.4%

+348億円

+は利益増（収入増・費用減）
▲は利益減（収入減・費用増）を意味する
(億円)



(1) その他（旅行・受託等）等=旅行・受託事業収入等 (2) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支 (3) FSC=Fuel Surcharge

- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を売上収益と費用にわけてお示ししております。
- 収入につきましては、国際・国内旅客や貨物郵便、LCC、マイル/金融・コマース、その他など、各事業セグメントにおいて収入が伸びた結果、前年より1,278億円の増収となりました。
- 費用につきましては、供給を増やしたことに伴い整備費や機材費が増加しております。また、人的投資として、人件費も前年度から増加させております。費用としては前年より1,051億円増加しましたが、コストを抑えつつ収入を伸ばしております。
- 以上の結果、EBITは前年より348億円の増加となっております。

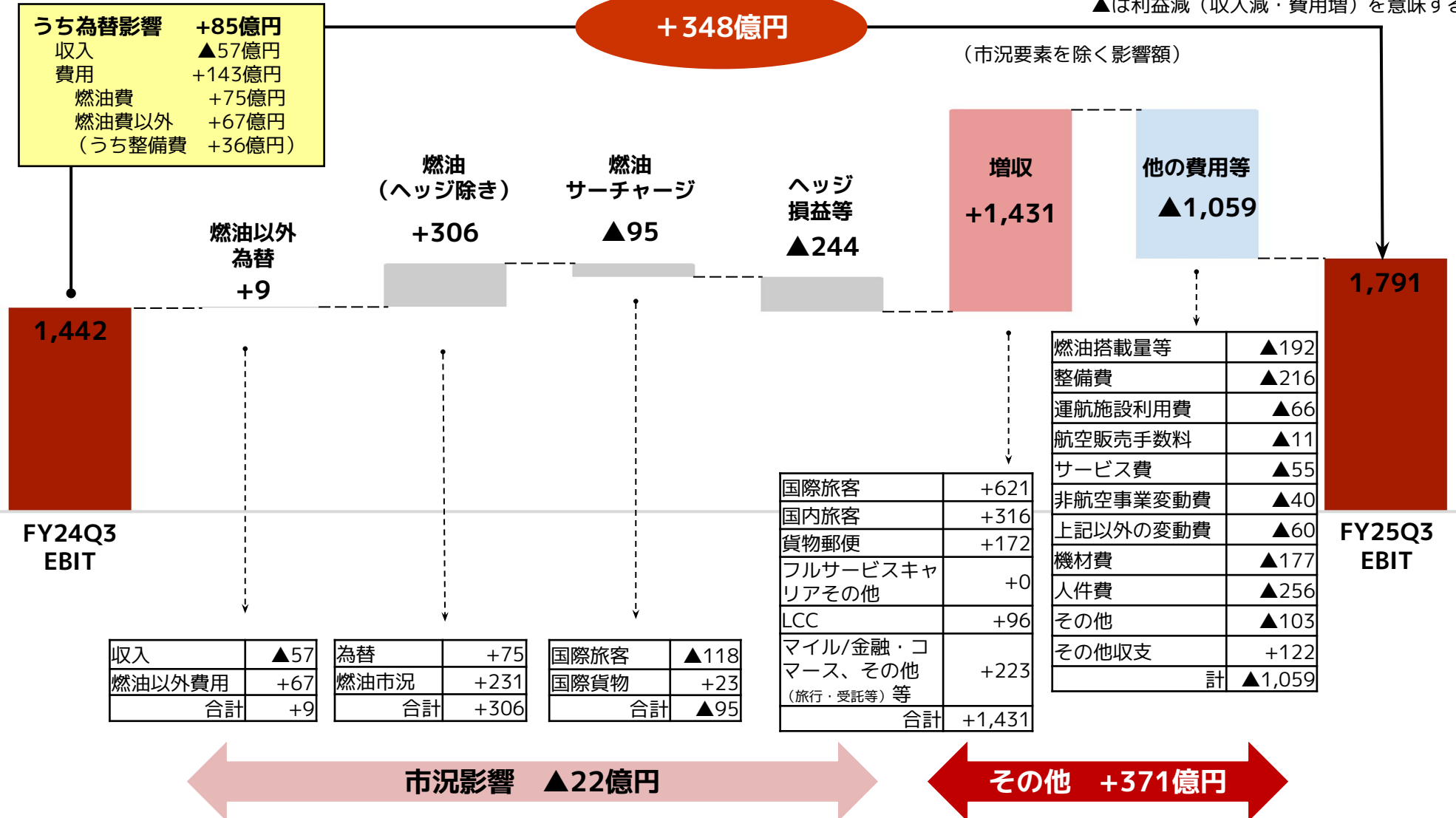
2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

EBIT増減の推移（市況／その他）



（億円）

+は利益増（収入増・費用減）
▲は利益減（収入減・費用増）を意味する



- こちらのページでは、前年からのEBITの差の要因を市況影響とその他の要因に分けてお示しております。
- 市況につきましては、シンガポールケロシンが前年から約9ドル、▲9.6%下落しております。為替市況につきましては昨年の152.6円から148.0円への円高となりました。
- これらの市況影響や補助金の減少の結果、前年より22億円のEBIT押し下げ要因となりました。また、市況影響を除いた影響は371億円のEBIT押し上げ要因となりました。
- 結果として、前年度から348億円のEBIT増加となっております。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

国際旅客（フルサービスキャリア）



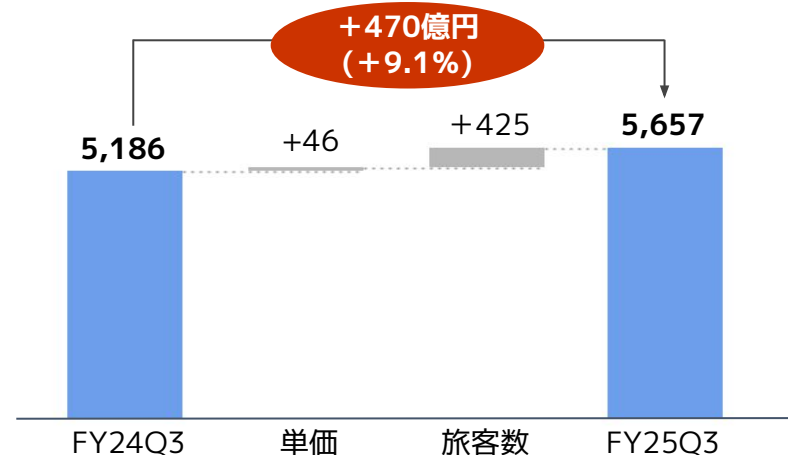
- ✓ 上期に続いて、好調なインバウンド需要と緩やかに回復する日本発ビジネス需要を取り込み、旅客数は堅調に推移。第3四半期単独では単価が特に好調で、対前年で増収を達成
- ✓ 期末に向けて、単価・旅客数は引き続き堅調に推移する見通し

国際旅客事業の状況

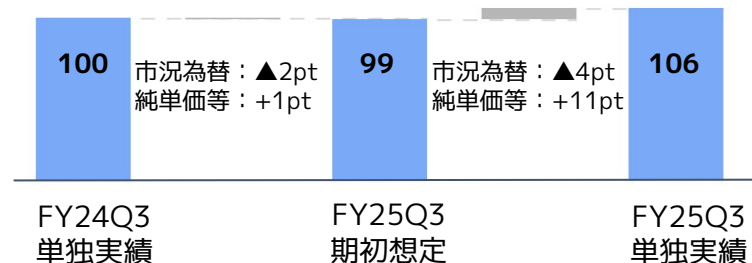
国際旅客事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	5,186	5,657	+9.1%	1,979	+11.1%
有償旅客数（千人）	5,557	6,012	+8.2%	2,025	+4.6%
RPK（百万人キロ）	30,999	34,160	+10.2%	11,597	+8.2%
ASK（百万席キロ）	37,447	39,946	+6.7%	13,567	+6.7%
有償座席利用率（%）	82.8%	85.5%	+2.7pt	85.5%	+1.2pt
単価（円）(1)	93,334	94,094	+0.8%	97,741	+6.2%
イールド（円）(2)	16.7	16.6	▲1.0%	17.1	+2.7%
ユニットレベニュー（円）(3)	13.9	14.2	+2.2%	14.6	+4.2%

- (1) 単価 = 旅客収入 / 有償旅客数
 (2) イールド = 旅客収入 / RPK
 (3) ユニットレベニュー = 旅客収入 / ASK

国際旅客収入の推移（億円）



Q3単独実績 単価変動 (FY24Q3単独実績 = 100)



- このページではフルサービスキャリア国際旅客の実績をお示ししております。
- 国際旅客については、引き続き好調なインバウンド需要と緩やかに回復する日本発ビジネス需要を取り込んだ結果、旅客数は前年から8.2%増加しました。これによりロードファクターは前年から2.7ポイント伸び、85.5%となりました。燃油サーチャージは市況に伴い前年より下がっておりますが、燃油サーチャージを除くネット単価は非常に好調に推移しております。結果、国際旅客収入は前年より9.1%増加の5,657億円となりました。
- 第4四半期は、A350-1000機体損傷による1機不稼働の影響や、中国線の需要落ち込みはあるものの、雪や桜のシーズンでの需要が強く、引き続き堅調なインバウンドを取り組むことで収入を伸ばしていきたいと考えております。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

国内旅客（フルサービスキャリア）



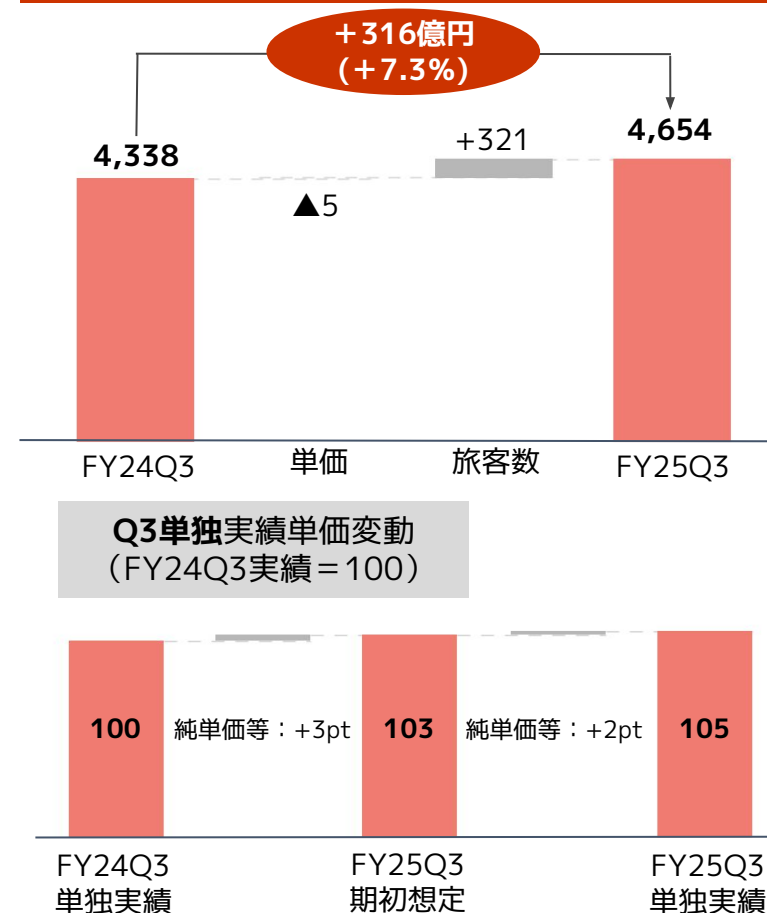
- ✓ 上期に続いて、旅客数は好調に推移。第3四半期単独では、高い有償座席利用率を背景にレベニューマネジメントが奏功し単価は向上、対前年で増収を達成
- ✓ 期末に向けて、単価・旅客数は引き続き堅調に推移する見通し

国内旅客事業の状況

国内旅客事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	4,338	4,654	+7.3%	1,633	+6.5%
有償旅客数（千人）	26,897	28,878	+7.4%	9,752	+1.5%
RPK（百万人キロ）	20,552	22,084	+7.5%	7,460	+1.8%
ASK（百万席キロ）	26,497	26,408	▲0.3%	8,772	▲0.8%
有償座席利用率（%）	77.6%	83.6%	+6.1pt	85.0%	+2.1pt
単価（円）(1)	16,130	16,118	▲0.1%	16,747	+4.9%
イールド（円）(2)	21.1	21.1	▲0.2%	21.9	+4.6%
ユニットレベニュー（円）(3)	16.4	17.6	+7.7%	18.6	+7.3%

- (1) 単価=旅客収入/有償旅客数
 (2) イールド=旅客収入/RPK
 (3) ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

国内旅客収入の推移（億円）



- このページではフルサービスキャリア国内旅客の実績をお示ししております。
- 柔軟なレベニューマネジメントにより、前年を上回る収入を確保いたしました。
- 単価は前年から0.1%減少となりましたが、旅客数は前年より7.4%増加し、ロードファクターが83.6%と非常に高い水準で推移しました。結果、国内旅客収入は前年より7.3%増加の4,654億円となりました。
- 第4四半期も柔軟なレベニューマネジメントにより旅客数と単価を伸ばしていきたいと考えております。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細 貨物



- ✓ 国際貨物は、貨物専用機ネットワークの拡充により増収を達成。バンコク線定期便化や、シカゴ向け大型貨物機の増便で、アジア北米間の旺盛な需要獲得に成功。北米発医薬品の大型需要を獲得し増収に貢献
- ✓ 国内貨物は、将来の新規需要獲得とモーダルシフト促進に向け説明会やセミナーを積極的に実施

国際貨物事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
貨物収入（億円）	944	1,126	+19.3%	419	+23.5%
有効貨物トンキロ（百万）	3,952	4,519	+14.4%	1,532	+16.2%
有償貨物トンキロ（百万）	2,105	2,457	+16.7%	848	+17.3%
貨物輸送重量（千トン）	390	447	+14.7%	154	+14.1%
重量単価（円/kg）	242	252	+4.0%	272	+8.2%

国内貨物事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
貨物収入（億円）	215	231	+7.5%	83	+3.8%
有効貨物トンキロ（百万）	1,273	1,286	+1.1%	431	+0.1%
有償貨物トンキロ（百万）	235	239	+1.7%	81	▲7.2%
貨物輸送重量（千トン）	252	251	▲0.5%	85	▲10.0%
重量単価（円/kg）	85	92	+8.1%	97	+15.3%

- こちらのページでは、貨物事業の業績をお示しております。
- 国際貨物は、貨物専用機ネットワークの拡充により対前年で増収を達成しました。自社貨物機や他社チャーター機を活用し、アジア北米間の旺盛な需要を獲得した結果、輸送重量、貨物収入ともに前年より伸ばすことができました。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

LCC



- ✓ ZIPAIRは、マーケットの需要に柔軟に対応し、期末に向けて堅調に推移する見通し
- ✓ SPRING JAPANは、北京・上海の主要都市の需要を取り込み、堅調に成長

ZIPAIR 	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	517	566	+9.6%	183	+10.8%
有償旅客数（千人）	1,018	1,033	+1.4%	358	+6.0%
RPK（百万人キロ）	5,817	6,221	+6.9%	2,063	+8.9%
ASK（百万席キロ）	6,947	8,275	+19.1%	2,630	+23.8%
有償座席利用率（%）	83.7%	75.2%	▲8.6pt	78.5%	▲10.7pt
単価（円）(1)	50,764	54,855	+8.1%	51,284	+4.5%
イールド（円）(2)	8.9	9.1	+2.5%	8.9	+1.7%
ユニットレベニュー（円）(3)	7.4	6.8	▲8.0%	7.0	▲10.5%

SPRING JAPAN 	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入（億円）	137	172	+25.3%	48	+35.8%
有償旅客数（千人）	738	820	+11.2%	243	+21.4%
RPK（百万人キロ）	1,048	1,348	+28.7%	391	+18.7%
ASK（百万席キロ）	1,344	1,530	+13.8%	457	▲1.4%
有償座席利用率（%）	78.0%	88.1%	+10.2pt	85.7%	+14.5pt
単価（円）(1)	18,643	21,013	+12.7%	19,870	+11.8%
イールド（円）(2)	13.1	12.8	▲2.6%	12.3	+14.5%
ユニットレベニュー（円）(3)	10.2	11.3	+10.1%	10.6	+37.8%

(1)単価=旅客収入/有償旅客数 (2)イールド=旅客収入/RPK (3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

- このページでは、LCCの実績をお示ししております。
- ZIPAIRは、マーケットの需要に柔軟に対応し、徐々に業績を回復しており、期末に向けて堅調に推移しております。
- また、スプリングジャパンにつきましては、中国大都市を中心に需要を取り込み、対前年比で旅客数、収入を伸ばしております。

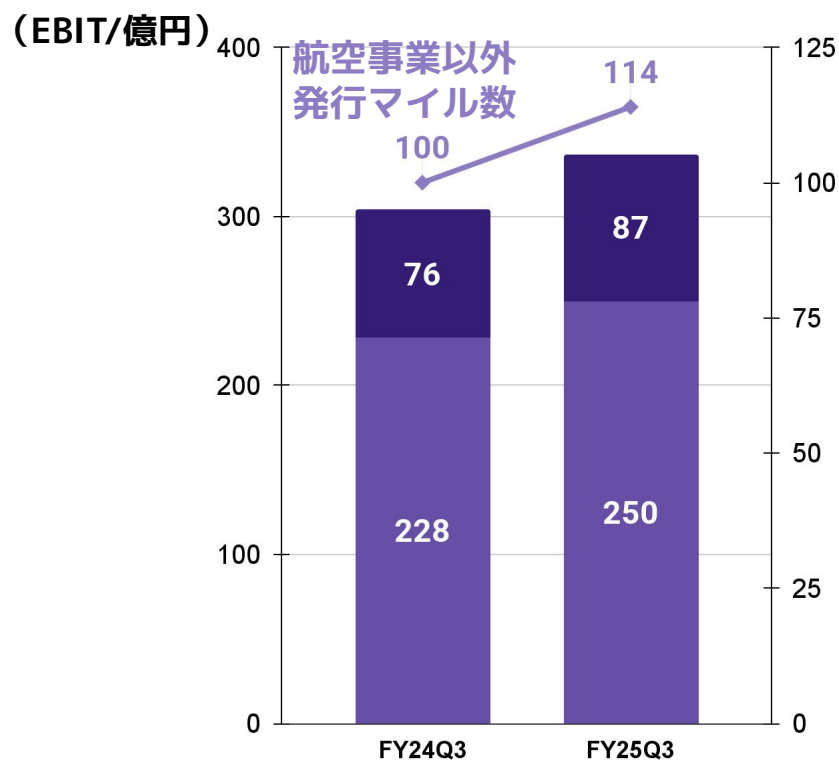
2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

マイル/金融・コマー্স、その他（旅行・受託等）



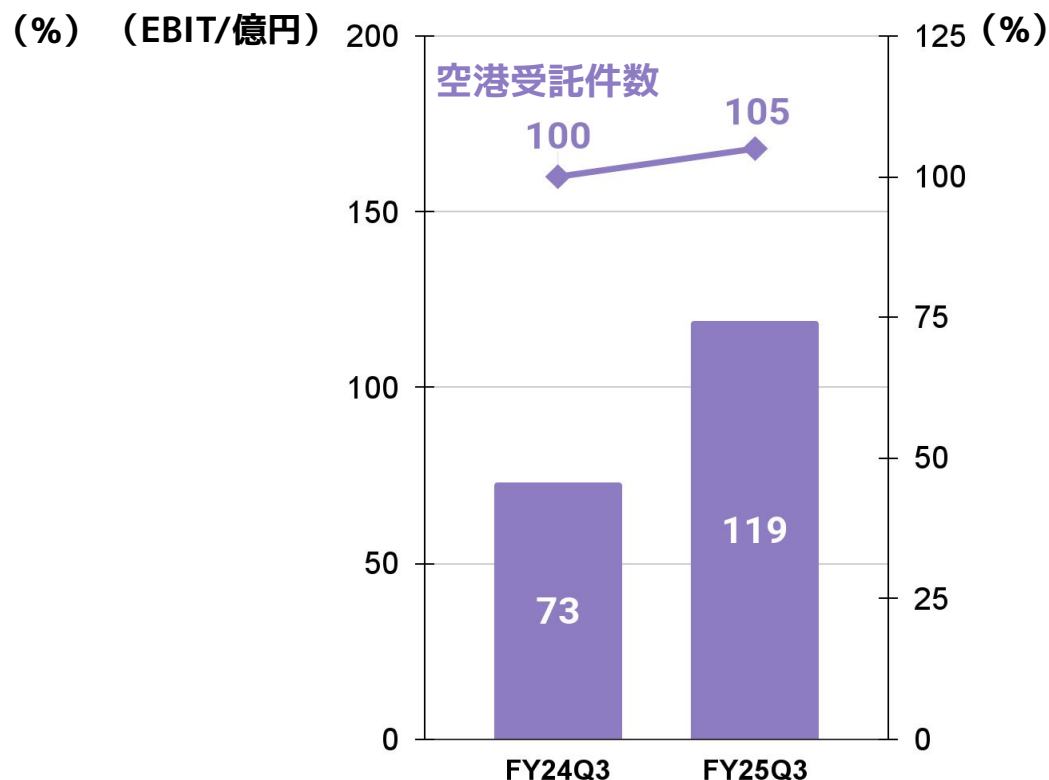
- ✓ マイル/金融・コマー্স事業は、マイル発行数が順調に伸長
- ✓ その他（旅行・受託等）は、グランドハンドリング受託が堅調

マイル/金融・コマー্স事業EBIT およびマイル発行数の増減



◆ 航空事業以外での発行マイル数 (FY24Q3=100)
 ■ コマー্স 事業利益 ■ マイル/金融 事業利益

その他（旅行・受託等）EBIT および空港受託件数の増減



■ 利益 ◆ 受託件数 (FY24Q3=100)

- このページでは、マイル/金融・コマー্স、その他の実績をお示ししております。
- マイル/金融・コマー্স事業においては、マイル発行数が順調に伸長しており、安定的にEBITを計上しております。
- また、その他の事業につきましても、グランドハンドリング受託が堅調に推移し、増益となりました。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細 費用詳細



主要営業費用項目

(単位：億円)	FY24Q3	累計			単独		
		FY25Q3	前年同期差	前年同期比	FY25Q3	FY24Q3	
						同期差	同期比
燃油費	2,844	2,974	+130	+4.6%	1,036	+115	+12.6%
運航施設利用費	653	716	+63	+9.7%	244	+16	+7.3%
整備費	1,094	1,273	+179	+16.4%	454	+63	+16.2%
航空販売手数料	226	235	+8	+3.9%	80	+5	+7.1%
サービス費(1)	423	474	+50	+12.0%	162	+14	+9.5%
他変動費(2)	1,815	1,910	+95	+5.3%	657	+15	+2.4%
機材費	915	1,090	+174	+19.1%	362	+53	+17.5%
人件費	2,675	2,930	+254	+9.5%	1,009	+85	+9.3%
その他の費用	1,889	1,984	+94	+5.0%	674	+17	+2.6%
営業費用合計	12,537	13,589	+1,051	+8.4%	4,681	+386	+9.0%

FSC (フルサービスキャリア) ユニットプロフィット

(単位：円)	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期差	FY25Q3	前年同期差
UR (ユニットレベニュー) (3)	14.9	15.5	+0.6	16.2	+0.8
UC (ユニットコスト) (4)	13.6	14.0	+0.4	14.2	+0.6
UP (ユニットプロフィット) (5)	1.3	1.6	+0.2	2.0	+0.2

(1) サービス費=機内・ラウンジ・貨物などのサービスに関わる費用 (2) 他変動費=旅行・マイル提携・コマース・受託事業原価 など

(3) ユニットレベニュー= 旅客収入 ÷ ASK (4) ユニットコスト= (営業費用-旅客収入以外の収入) ÷ ASK (5) ユニットプロフィット=(ユニットレベニュー)-(ユニットコスト)

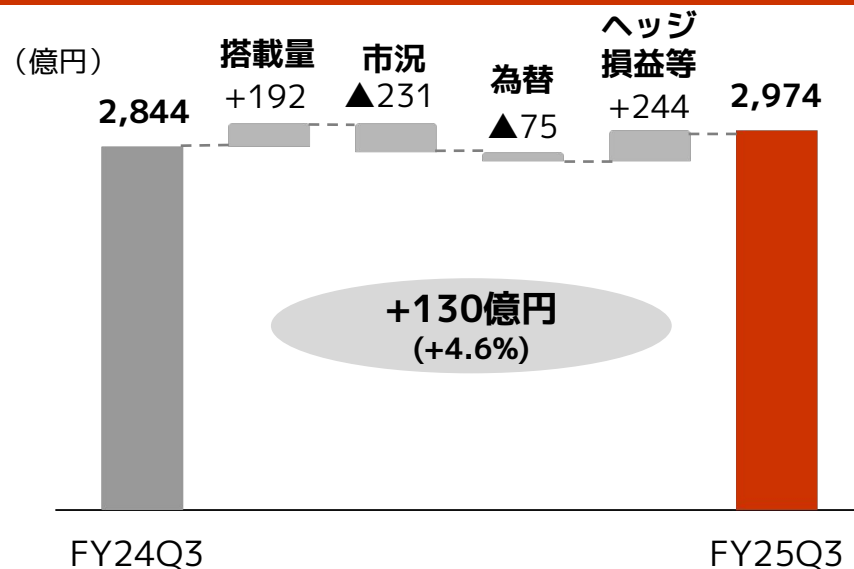
- このページでは、費用の詳細とユニットプロフィットについてご説明します。
- 整備費や機材費、人件費をはじめとする各種費用が増加した結果、営業費用合計は前年より1,051億円増加し、13,589億円となりました。
- ユニットレベニュー、ユニットコストはともに上昇しましたがユニットレベニューをより伸ばすことで、ユニットプロフィットは1.6となりました。ユニットレベニューの向上とともに、コストコントロールを通じたユニットコストの低減に努めてまいります。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

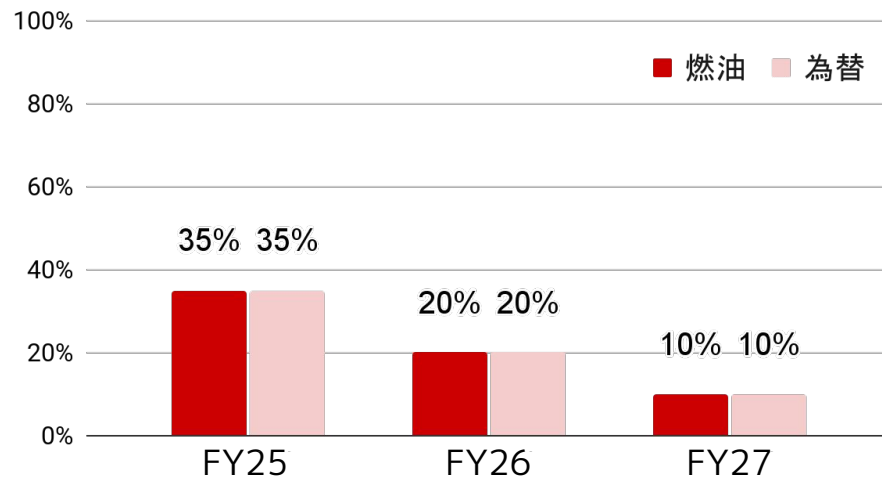
燃油費



燃油費増減の推移



燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2025年12月末時点)



燃油ヘッジ

燃油使用量



- 国内線使用量を対象にヘッジを実施、燃油市況変動に対応
- 国際線使用量は燃油サーチャージ収受にて対応

為替ヘッジ

外貨費用



- 国内線使用量の燃油費を対象にヘッジ実施、燃油費における為替市況変動に対応
- 足許では海外発需要の高まりにより、外貨収入が燃油費を除く外貨費用を上回る

- このページでは、燃油費及びヘッジについてご説明します。
- 第3四半期の燃油費は前年から130億円増加の2,974億円でした。
- 右上のグラフは現在のヘッジの進捗状況をお示ししております。また、下段にはご参考までに当社の燃油及び為替のヘッジ量の概念図をお示ししております。

2026年3月期 第3四半期 連結業績詳細

財務状況・キャッシュフロー状況



BS ✓ 自己資本比率40.3%、ネットD/Eレシオはマイナス(ネットキャッシュ)で健全な水準を維持

CF ✓ 航空機投資が拡大する中でフリーキャッシュフローは黒字を維持

連結財政状態計算書	FY24期末	FY25Q3末	前期末差
総資産	27,949	30,388	+2,439
現金及び現金同等物	7,490	9,002	+1,512
有利子負債	8,960	8,666	▲293
1年内返済	945	1,411	+465
自己資本(1)	9,750	12,232	+2,482
自己資本比率 (%) (2)(5)	34.9% (41.1%)	40.3% (40.2%)	+5.4pt (▲1.0pt)
D/Eレシオ (倍) (3)	0.9x	0.7x	▲0.2x
ネットD/Eレシオ (倍) (4)(5)	0.2x (▲0.0x)	▲0.0x (▲0.0x)	▲0.2x (▲0.0x)

(億円)

- (1) 自己資本=親会社の所有者に帰属する持分
- (2) 自己資本比率=親会社所有者帰属持分比率
- (3) D/Eレシオ=有利子負債/自己資本
- (4) ネットD/Eレシオ=(有利子負債－現金および現金同等物) / 自己資本
- (5) ()内の数字は、ハイブリッド・ファイナンスおよび永久劣後債を加味した格付評価上の数値
- (6) フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
- (7) キャッシュフロー合計=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー
- (8) EBITDA=EBIT+減価償却費

連結キャッシュフロー計算書	FY24Q3	FY25Q3	前年同期差
営業キャッシュフロー	2,516	2,224	▲291
減価償却費	1,159	1,235	+76
投資キャッシュフロー	▲2,221	▲1,239	+981
投資・出資額	▲2,357	▲1,469	+888
フリーキャッシュフロー (6)	294	984	+690
財務キャッシュフロー	▲502	497	+999
キャッシュフロー合計 (7)	▲208	1,481	+1,689
EBITDA (8)	2,602	3,027	+424

- バランスシートとキャッシュフローについてこのページで説明いたします。
- 2025年12月末の格付評価上の自己資本比率は40.2%、同じくネットDEレシオはマイナスとキャッシュリッチであり引き続き健全な水準を維持しております。
- また、12月末時点での手元現預金は9,002億円となりました。
- キャッシュフローですが、営業キャッシュフローは2,224億円のキャッシュインフローとなりました。また、フリーキャッシュフローも984億円の黒字となっております。
- 22ページでは当社の持分法適用会社であるジェットスター・ジャパン(JJP)について、お知らせしております。

1. 2026年3月期 第3四半期 業績概要
2. 2026年3月期 第3四半期 業績詳細
3. 参考資料

参考資料

国際線大路別実績（フルサービスキャリア）



旅客収入				
(単位:%)	累計		単独	
	FY25Q3 構成比	FY24Q3比	FY25Q3 構成比	FY24Q3比
米大陸線	41%	+16.8%	40%	+19.3%
欧州線	17%	+6.3%	17%	+12.1%
アジア・オセアニア線	28%	+0.9%	30%	+1.1%
中国線	6%	▲0.7%	5%	+2.6%
ハワイ・グアム線	8%	+16.4%	8%	+19.2%
全路線	100%	+9.0%	100%	+11.1%

ASK				
(単位: 百万席キロ)	累計		単独	
	FY25Q3	FY24Q3比	FY25Q3	FY24Q3比
米大陸線	15,407	+12.1%	5,241	+13.9%
欧州線	6,105	+0.7%	2,000	+0.8%
アジア・オセアニア線	12,527	+2.8%	4,265	+0.7%
中国線	1,736	▲4.3%	600	▲8.5%
ハワイ・グアム線	4,169	+14.5%	1,459	+17.5%
全路線	39,946	+6.7%	13,567	+6.7%

RPK				
(単位: 百万人キロ)	累計		単独	
	FY25Q3	FY24Q3比	FY25Q3	FY24Q3比
米大陸線	13,079	+12.4%	4,356	+13.4%
欧州線	5,396	+6.2%	1,789	+6.7%
アジア・オセアニア線	10,790	+7.5%	3,796	+1.4%
中国線	1,383	+4.2%	426	▲1.6%
ハワイ・グアム線	3,510	+20.3%	1,228	+20.6%
全路線	34,160	+10.2%	11,597	+8.2%

有償旅客数				
(単位:千人)	累計		単独	
	FY25Q3	FY24Q3比	FY25Q3	FY24Q3比
米大陸線	1,396	+12.3%	464	+13.1%
欧州線	588	+6.6%	194	+7.0%
アジア・オセアニア線	2,686	+4.5%	928	▲1.2%
中国線	732	+5.7%	225	▲1.0%
ハワイ・グアム線	609	+21.7%	212	+20.9%
全路線	6,012	+8.2%	2,025	+4.6%

有償座席利用率				
(単位:%)	累計		単独	
	FY25Q3	FY24Q3	FY25Q3	FY24Q3
米大陸線	84.9%	84.6%	83.1%	83.5%
欧州線	88.4%	83.8%	89.5%	84.5%
アジア・オセアニア線	86.1%	82.4%	89.0%	88.4%
中国線	79.7%	73.2%	71.0%	66.0%
ハワイ・グアム線	84.2%	80.1%	84.2%	82.0%
全路線	85.5%	82.8%	85.5%	84.3%

参考資料

航空機一覧



			前期末 2025/3/31			当期末 2025/12/31			増減
			所有	リース	合計	所有	リース	合計	
フルサービスキャリア	大型機	Airbus A350-1000	7	1	8	9	1	10	+2
		Airbus A350-900	11	4	15	12	4	16	+1
		Boeing 777-300ER	12	0	12	10	0	10	▲2
		大型機 小計	30	5	35	31	5	36	+1
	中型機	Boeing 787-9	19	3	22	19	3	22	0
		Boeing 787-8	23	0	23	23	0	23	0
		Boeing 767-300ER	24	0	24	24	0	24	0
		中型機 小計	66	3	69	66	3	69	0
	小型機	Boeing 737-800	49	7	56	49	7	56	0
		小型機 小計	49	7	56	49	7	56	0
	リージョナル機	Embraer 170 / Embraer 190	32	0	32	32	0	32	0
		De Havilland DHC-8-400CC	5	0	5	5	0	5	0
		ATR42-600 / ATR72-600	14	1	15	14	1	15	0
		リージョナル機 小計	51	1	52	51	1	52	0
	貨物機	Airbus A321-200	0	3	3	0	3	3	0
		Boeing 767-300ER	3	0	3	3	0	3	0
		貨物機 小計	3	3	6	3	3	6	0
フルサービスキャリア 合計			199	19	218	200	19	219	+1
LCC	Boeing 787-8		8	0	8	8	0	8	0
	Boeing 737-800		0	6	6	0	6	6	0
	LCC合計		8	6	14	8	6	14	0
総計			207	25	232	208	25	233	+1

参考資料

2026年3月期 セグメント別通期業績予想



(単位：億円)		FY25			
		上期累計	Q3単独	Q3累計	通期予想
売上収益		9,839	5,298	15,137	19,770
フルサービスキャリア		7,751	4,216	11,967	15,250
	国際旅客収入	3,677	1,979	5,657	7,150
	国内旅客収入	3,022	1,633	4,655	5,830
	貨物郵便収入	909	527	1,437	1,890
	その他収入	141	74	216	380
LCC		590	274	865	1,250
マイル/金融・コマー্স		1,079	589	1,668	2,260
その他（旅行・受託等）		1,280	640	1,920	2,900
連結調整額		▲862	▲422	▲1,284	▲1,890
営業費用		8,908	4,681	13,589	18,080
燃料費		1,938	1,036	2,974	4,050
	燃料費以外	6,970	3,645	10,615	14,030
その他収支		166	77	243	310
EBIT		1,097	694	1,791	2,000
フルサービスキャリア		762	506	1,268	1,170
	LCC	70	6	76	190
	マイル/金融・コマー্স	210	127	338	510
	その他（旅行・受託等）	64	54	119	150
	連結調整額	▲11	▲0	▲12	▲20
純利益		676	460	1,137	1,150

燃油・為替の市況変動によるQ4の利益影響 (ヘッジ、燃油サーチャージ等込み)

(億円)	燃油市況 (USD/bbl)	ドバイ 原油	65ドル	70ドル	75ドル	80ドル
		シンガポール・ ケロシン	80ドル	85ドル	90ドル	95ドル
為替 (円/USD)	135円		+35	+30	+20	+10
	140円		+30	+20	+20	▲5
	145円		+20	+10	予想前提 ±0	▲10
	150円		+15	+5	▲10	▲20
	155円		+10	▲5	▲20	▲30

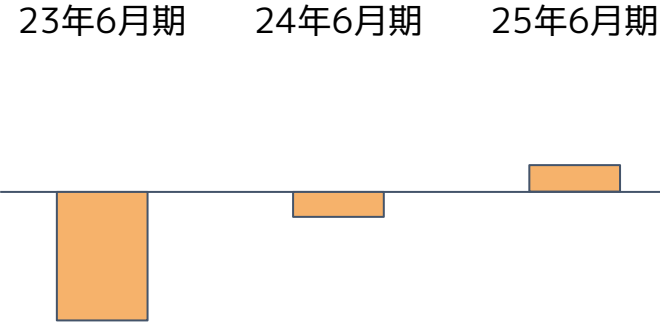
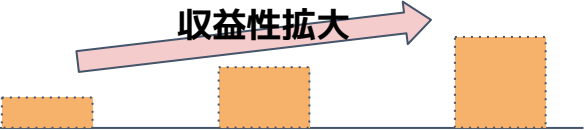
※本表は、燃油市況（シンガポール・ケロシン）及び為替の変動により、燃油サーチャージ収入及び燃油費が増減することで、当社の2026年3月期の利益がどのように変動するかを示しております。
なお、2026年3月までの燃油サーチャージテーブルは確定しており、これを反映済みです。

参考資料

JetStarJapan(JJP)の株主構成変更検討に関する日本政策投資銀行(DBJ)との法的拘束力を有しない覚書の締結



✓ DBJを新たなパートナーに迎え、JJPは自立的な運営の元で引き続き成田空港をネットワークの中心として、インバウンド需要獲得によるアジアLCC事業の推進を図る

JJPの将来像	これまで	将来 2026年10月 新ブランド発表 2027年 6月 株式譲渡手続きの完了
株主構成	 JAPAN AIRLINES  QANTAS  Tokyo Century	 JAPAN AIRLINES  DBJ  Tokyo Century
事業領域	・近距離アジア国際線 ・国内線 	・ <u>近距離アジア国際線を拡大</u> ・国内線 
業績 (営業利益イメージ)		

- 日本政策投資銀行(DBJ)が新たにJJPの株主として参画検討を開始する旨の法的拘束力の無い覚書を、JALとDBJで締結しました。
- 併せて、従前JJPの主要株主であったカンタスグループ(QAG)も、保有するJJPの全株式を譲渡する意向であり、JJPを本邦資本主導の新しい株主構成に移行することの覚書をJALとQAGでも締結しております。
- 日本の航空事業経営において豊富な知見と実績を有するDBJを新たなパートナーに迎え、自立的な運営の元で、JJPは引き続き成田空港をネットワークの中心として国際線ネットワークを拡大し、インバウンド需要の獲得を通じて、JALグループの企業価値のさらなる向上を目指します。
- 今後は、最終合意に向けて関係者間で協議を進めて参りますが、開示すべき事実を決定した場合には速やかに公表いたします。

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

本資料には、日本航空株式会社（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（以下当社とあわせて「当社グループ」といいます）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点（又はそこに別途明記された時点）において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点（又はそこに別途明記された時点）のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。